

春のワークキャンプを終って

レポート

岡山県阿哲郡神郷町油野
備北南拓にて 今井真治

★キャンプの出来事を思い出しながら---

- 〈3月1日〉2月末に雪が降って40cmくらい積っている。きょうまで、ワーク・キャンプに關しての実行委からの連絡が全然届いていない。はたして、ワーク・キャンプを開くのか、どうかさ之も不明のまま。夕方、突然5人がやってきて、キャンプの開始となった。食糧の用意など全然してないので、さっそく買出し。
- 〈2日〉夜、実行委のM氏、山を下りると言い出す。M氏の言うには「キャンプの呼びかけ役は引きうけたが、キャンプ中の世話役はやりたくない」とか。去年の夏のワーク・キャンプの反省として、キャンプリーダー(世話役のようなもの)が必要なのじゃあないかと思っていたのに、また裏切られた感じ。
- 〈3日〉M氏、朝とうとう下山。
- 〈5日〉早朝、大阪から救援物資が届く。あわただしく、朝メシを食って また消えていく。キャンプ論、百人委員論など、もっと話し込む必要ありそう。キャンプは続行するようです。
- 〈13日〉また雪が降る。仕事はシイタケの植菌です。
- 〈17日〉シイタケのホダ場作り。春野菜の播種。
- 〈19日〉広島からの資材、上油野まで到着。
- 〈25日〉新見まで ヒナ導入準備のため買い出し。
- 〈29日〉朝、愛知県から ピヨピヨ到着。まるで オトナのオモチャ(?)のようにみんな、よろこぶ。ヒヨコの導入準備がやや遅れぎみだったので、来春はもっと早目から準備をはじめよう。また、ヒヨコ導入時期についても4月中毎ころに

した方がよいのではないかな。

〈31日〉きょうでキャンプは一応終了。あいにく昼すぎから雨が雪に変わり、どんどん積っていつている。夕方からイロリをがこんで ビホクがかかえている。さまざまな問題を徹夜で語り合った。大まかなところでのめざしているものの差はあまり感じないのだが、具体的なことになるとう他の人たちの考えがわかるところもあり、またわからないところもあるといった感じ。やはり言葉のやりとりで 早急な結論めいたものを出すのではなくて、実際のなかで それぞれの問題を通して、違いをはっきりさせたり、結びついていったりしながら、これまでと違った新しい関係を築いていくように努力していこうと思う。

★参加した頭数 (短期間の人も含めて) ⇒ 合計 27名

I期 (3/1 ~ /8) 7名

II期 (3/9 ~ /15) 5名

III期 (3/16 ~ /23) 7名

IV期 (3/24 ~ /31) 13名

★使ったお金、入ったお金---

収入 --- 40,950.-

支出 --- 34,340.- (食費、燃料費、工具修理費)

差引 --- 6,610.-

★キャンプに来た人たちと、ぼくと---

◎沈黙の中で、S君がここへ来て何を感じ何を考えているのか、特に彼が農業を志しているということから、ぼくはむしろ知りたかった。それがぼくへの農業の取り組み方に対する批判であったにしても、むしろその批判が、ぼくの中にある偏見をうちくたく刺激とさえなるかもしれないと思われた。彼は楽書帳に「備北に崗して全く批判は何もありません。まあ無神経というか、無気力というか、言葉が出て来ないんです。」と記して、山をおりていった。彼がどのような気持を抱いて、この文章を記したかを考えてみると ぼくが彼に対して「自分でやりながら語れ」という一種の拒否反

応ともうけとれる態度で接したせいかもしれない。一方で悪いことをしたような気持ちを抱きながら、一方では百姓という仕事をあまりに幻想的に傍観者の的にみているような彼への反撥をも抱いてしまう。

◎教育について関心をもち「月刊キブツ」を通して備北を知ったというW君と話している時、なぜこの人は自分の立場をみつめないで 派手な状況のうつりかわりに目うつりばかりしているのだろうかと感じた。たしかに多くの人が何をどのようにしてよいのかわからずモンモンとしているという状態であることはわかる。ぼくだってたまに百姓に首をつっこんではいるものの、それこそ教育のことにだって、労組組合のことにだって直接首をつっこんでみたいという気持ちを抱いて、百姓バイヤになったことだってある。ただあせってみても いやあせればあせるだけ、結局、自分を見失ってしまうだけのことでないのか。それよりも、たとえちっぽけなことからでも自分の立場をみつめて、そこから何かをやりはじめてみる方がよいのではないかと思う。

◎「1ヶ月くらいいいなけりゃ何もわからないと思って1ヶ月の予定で来たのですが、都会の人ごみ、けんそう、パチンコ、女……がなつかしくなりました」と楽書帳に書いて山をおりたT君は、ぼくとはほとんど何も話さなかったりで 今でも何をどのようにやろうとしているのか、やりたいのかわからない人だ。

ぼくやぼくらのここでの生活をキャンプにきた人たちは「どんなところでどんな状態なのか、見に来た」とよく言うのだけれど、そんな言葉を耳にするたびに、ぼくの生活は見せ物なのかと、ひねくれてうけとってしまう。たしかに山奥での生活は都会の人たちにとっては物珍しいのだけれど、そんなことのためにキャンプがあるのなら、ぼくとしてはキャンプでこの生活を見に来た人たちを追い出したり、追い返したりしたいと思う。このことに関して 楽書帳の最初のページにおもしろい文が書いてあった。「遠路はるばる ごくろうさまです。でもしんどい目をして登ってきたキミがやるべき事は備北をゴウカンすることとちゃう(違)うようです。またしんどい目をして山をおりてそれぞれ帰ったところで、ゴウカンしはじめることのようにです。前

から犯しても 後ろからでも ーどんな凡にやってもええやろと思います。それぞれ好きな凡にやって下さい。 “一発やるか” てる人、このノードにそれぞれとええ凡にやるのが書いていて下さい。ちょうどキミが好きな駅や図書館の便所の壁のように。 この日記の本当の名前は ー「現代日本強姦地図」なのです。キミの方^{オシエテ}

★ キャンパーたちの眼からビホクをみるとー

(「現代日本強姦地図」から 抜粋)

◎「自称 *the egoist of egoists* であつたけれど、それに徹し切れない未熟さが残念というか無念というか、修業の途中下車であつた。 .. こんなに雪の多い所で生活したのは初めてであつた。その白さを見る、その冷たさを感じる、その絶妙さに驚く、その美しさに歓ぶ。 .. 私にできることといへばたき木あつめだけであつた。 .. 山道を歩く楽しさは何物にもかえがたい。 .. あすの朝、山道を歩くことができる。ここを出ていくのだからー 私の言いたかつたことは ありがとう。」 (3月7日)

◎ラジオのニュースでは連日赤軍リンチ殺人事件のことばかり言っています。彼らの様な非合法活動を行なう上では仕方のない事かも知れません。だけど バカらしいことだと思うのです。運動とは何か、革命とは何か 再検討する必要があるかもしれません。でも彼らの殺人の理由の1つとして、男女関係があるそうです。どこにでも同じ問題はころがっていると思うのです。金と男女関係を抜きにして革命は語れないようですね。皆さん真面目に考えてオマンコを行ないましょう。子供が出来てからでは遅いのです。」 (3月10日)

◎「僕は今、なんかモンモンとしてるけど、心のどこかで アクアクと沸いてくるものを持ってるなと感じてるんですわ。これをくばらく育ててみようと思ってます。」 (3月13日)

◎「ボクは “運動” なんか信用してへんよ。自分が何かしている時にでも、ただどこかにボクの菌ガタをつ



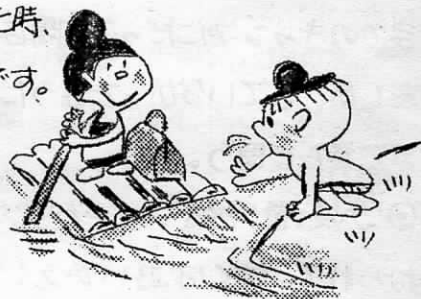
けたいんヨメ (3月13日)

◎「援農」とか「キャンプ」とか しょうもないことにこだわらんと 本当になにをしたらエエのか もういちど最初から とらえなおします。」 (3月13日)

◎「徹底して無理を承知で無理して、その無理が堂に入ってるから無理でないのか もしれない。 既製の集団がもつ矛盾を全て(もちろん認識しえる範囲内で) きりすてた集団を指向しているように思える。もしそうなら楽しみ。とにかく「タブー」がないのが一番いい。」 (3月19日)

◎「ポイと孤島に投げだされた感じです。今まで「ユートピア」を求めて少しばかりの共同体をさまよい歩きました。その時は「そうだ、これだ！」なんて思っていたのですが、今この時点で考えると、何も得ていないのです。『さあー農業をしろ、百姓をしろ！ それでないと食べてゆけないぞ！』と云われた時、私は今まで通りの暗くて貧しい農業をやっていくのです。

共同体とは 人間関係の新しい場を作る為の手段と云われても 私にはわからないのです。自分で苦しんで考えてユートピアに一步でも近づくしか道がないのですね——。農業をひとりぼっちでやりながら、ユートピアを考えてゆくという



のはむかしい事ですね。今ごろ痛感しています。だから共同体運動があるのだけどそこから先、どう考えてよいのか わからないのです。山奥へとじこもって、また考えます。」 (3月23日)

◎岡山から足立までの車窓のながめは、今でも頭に浮かべることが出来るくらい鮮やかだ。家のつくりや段々畑やセメント工場や、枯れた草が茶色のままで残っている山はだや、川の澄んだ流れや、桃色の花が咲いていた——。それは自分の想像をこわして 強く存在していた。その時のように 今 あたしの農業に対する幻想がこわれてほしい。あたしの目が事実を見抜けないからか、まだ、何かに頼ろうとしている。」 (3月31日)

★ キャンプが終って思っていること (ひとりごとみたいな あなたへのラブレター)

◎やはりキャンプを終って、ほっとした気持です。ある意味では、気が抜けたみたいな感じもする。こんどのキャンプにはこれまでよりも、ぼくの言いたいことをぶつけたように、ある時には強すぎるくらいにぶつけたように思っています。そうしないと、ぼくの生活というか、ぼくが生きているという事実がメチャメチャにこわされそうな感じをうけたから—。

◎ただそれがキャンプにやってきた人たちにどう映ったか— それこそ恐怖を感じたか、なにかしら閉鎖性を感じたか、そのことについて何かたとえ一言でも便りをくれるといいのだけどなあ。もうぼくに便りを書いたりするのもイヤかな？

◎こんどのキャンプは次から次へと問題がはっきりとでてきたように思っている。今までのキャンプにだって問題はあったと思うのだけれど、ぼく自身もいかにげんな対応しか、していなかったようだし、問題点を直視せずになれあいの的に問題点を通り過ぎてきたと思う。

◎「今後、誰かがキャンプを呼びかけてここへキャンパーがきたらどうするのか」と尋ねられて、ぼくは「追いかえしてしまうだろう」と言った。おそらく、今までのキャンプだったら ほんとうに追いかえしてしまうだろう。

◎だから、今後キャンプをやるのだったら、キャンプをやりたいと誰かが思うのだったら、今までのキャンプの反省を活かして、一步でも前向きな内容のキャンプにするように、急入りの準備としていいな尻ぬぐいの点までも考えてほしいと思う。

◎その意味でぼくは2日前に終ったキャンプの速報のようなレポートを書いてみた。この速報だけでは不十分だし、欠けている問題もあると思う。あえて、ここでぼくがこの速報を書きあげた気持ちをどうか くみとって あなたも あなたの感想や反省、ここでの問題などについて 考えてみて下さい。

気がむいたら便りください。たのしみになります。 ではまた。

付 寄稿

—下界においた オオクニヌミ—

今回のキャンプは、ボクに色々な問題をなげかけてきました。それらの問題をまだ十分に整理していない今、それを羅列することで今回のキャンプ報告としておきたいと思います。

- ・『ワーク・キャンプ』においての『関係』とは何か。
- ・“親しい”というものは、なれあひ的で、それは、オ三者に対して閉鎖的なものとなるのではないか。
- ・個と個の緊張関係が、連合体、又は、共同体を生む原動力ではないか。



- ・個と他の関係（個—個、個—集団）とは一体何か。
- ・個人の意志と集団の意志との関係。個の意志が、集団の中であってどの様に発現されるか、集団の意志は、個の意志を押しつぶさないか、

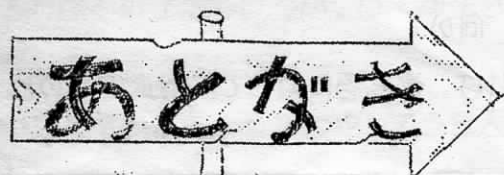
個が集まって集団を形成するとき、集団が個の手をはなれて、集団としての意志を持つのだろうか。

- ・個が個を実感として感じた時始めて、集団(連合)を形成するのではないか。
- ・『オミの道』(新たな関係)への『出逢い』とは何か。
- ・『出逢い』に於ける『媒介』の意味。『媒介』によって『出会い』は意味を異にするものか。
- ・『媒介』としての“場”のちがひ（偶然としての場、必然としての場）はあるのか。自らが場を造る事は出来るのか、その可能性は、又、必要性はあるのか。
- ・『ワーク・キャンプ』は『媒介』の一つとしての意義があるのか。
- ・共通体験としての『出逢い』は必要か。

・『出会い』の後の自己運動(生活)とは何か、又、それをいかに始めるか。

だいたい 以上のようなことです。こうして書いてみると とても観念的なようです。それに ボク以外の人が見てもピンとこないかも知れません。そして、このような事はもう通りすぎた人もいると思います。その様な人は、どうか 考えを聞かせて下さい。

1972. 4.



今井君の、個人的レポートのこの報告書に、ボクなオマケとして顔を出し、そして 図々しくも、あとがき まで付けてやろうとしているのです。

何のなのと言ったところで、キャンプは終わったのです。ちょうど、山の雪が溶けるように。となし、その時間的なもの、『春のキャンプ』は終わっただけなんです。山から雪が消えただけのように。雪が溶けても、水になり、小川を流れ、大きな流れになっていくように、キャンプへ来た それぞれの人達は、又、いろんなところで生活をしていることと思います。備北も以然として 備北としてありつづけているのです。

キャンプでの生活が、あなたにとって 何であったかボクには知る余地もないんですな、一つの経験としてのキャンプと 自分自身の生活とを関係づけることをしていく中ならなんなでくるんでは と思っています。

これは あくまで今井君の個人的レポートでしかないのです。あのキャンプで あなたが 何を感じ 何を考えたかを書いてみて欲しいんです。みんなのレポートをもとにして、報告書を作りたいと思います。

(オオクニ又三)

大阪市東成区玉津二丁目
東成玉津郵便局 留

(8) 備北百人委員会